

平成27年度後期 京都女子大学『学生アンケートによる優秀授業賞』  
「授業紹介シート」

受賞対象授業名	生化学実験
曜日・講時	金曜日 3-5 講時開講
講義コード	3945
授業区分	授業区分①：受講者数が25名以上～49名以下の開講授業
担当者名	松本 晋也
所属学部・学科	家政学部食物栄養学科

今回受賞対象となられた授業について、その取り組みや工夫などについて、ご紹介ください。

本科目は、生体内の化学反応が実際の生命活動や身体の機能の基礎になっていることを実験を通じて理解することを目的とします。したがって、化学反応を正確に再現するための原理と操作を習熟することはもちろんですが、化学反応とそれに立脚する生命現象とを関連づけて理解できることが重要です。ただ、理系学生には生化学の意義を理解するのはそれほど難しくないのですが、文系出身者や化学を得意としない学生には取っつきにくいものです。そこで、いかに苦手意識を克服し、集中力を持続させるかを念頭に、本科目では以下の点に気をつけながら授業を進めています。

1) 実験の全体像（化学反応の概要と生命活動との関連性、実験の目的・手法・解釈）を理解してもらえよう説明を工夫している。

→ 説明は、簡潔かつ短時間に終わるようにする。詳しく説明すればより深く理解できるというのは必ずしも正しくはなく、加えて教員は概して多弁に陥りやすいことから、長い説明は却って学生の理解を妨げると感じている。誤解を恐れず単純化して説明した方が集中力の維持と全体像の理解には効果的だと考えている。

2) 遂行した実験、得られた結果と解釈、及びレポートにはきちんとレスポンスする。

→ 学生はそれなりの時間とエネルギーを投入して実験をおこない、レポートを作成しているので、それに対してきちんとレスポンスすることにより学生の達成感と充実感獲得に貢献すべきだと考える。実際、きちんとレスポンスした時には、学生からの反応（いわゆる「食いつき」）が断然良いという感触を抱いている。

なお、安全で効率がよく、同時に学生からの評価が高い学生実験を提供することは教員だけでは不可能だと考えています。今回「優秀授業賞」をいただくにあたり、学生実験の準備や補助をおこなってくれたLSの存在なくしては受賞はあり得なかったと考えています。

**平成27年度後期 京都女子大学『学生アンケートによる優秀授業賞』  
「授業紹介シート」**

受賞対象授業名	伴奏法
曜日・講時	水曜日 3 講時開講
講義コード	3505
授業区分	授業区分①：受講者数が 25 名以上～49 名以下の開講授業
担当者名	土居 知子
所属学部・学科	発達教育学部教育学科

**今回受賞対象となられた授業について、その取り組みや工夫などについて、ご紹介ください。**

この授業は、教育現場や演奏表現活動における“ピアノ伴奏”に欠かすことのできない音楽的基礎知識や柔軟性に富んだ多様な実技力を修得し、伴奏がもたらす役割とその重要性を理解してもらうことを目標に掲げています。内容としては、中学校・高等学校の音楽の教科書に掲載されている主要楽曲をはじめ、声楽の授業でもよく取り上げられるイタリア歌曲・ドイツ歌曲・日本歌曲にもスポットを当て、一人一台ずつ電子ピアノを使用しながら、実践的なスキルが身につくように授業を組み立てています。主に、《読譜法》《音楽解釈法》《演奏表現法》といった 3 つの視点から“音楽的な伴奏のあり方”を探っていき、実技力のみならず、聴く力・合わせる力・コミュニケーション力・反応力・発想力・柔軟性・創造性など、多岐に亘る能力を有機的に結び付けられるよう、選曲や指導言語においても出来る限りの工夫を施しました。

授業内の取り組みや進め方で、配慮している点・工夫している点について、まとめてみました。

- 毎回の授業における単元目標を明確にし、学生各自における現時点での課題とその解決法を考えさせる。
- 実技系授業の性質上、予習・復習にあたる“日々の練習”は不可欠であるため、その必要性を説き、練習することが習慣づくような言葉かけを毎時行う。
- これまでに履修した関連科目（前期「器楽基礎Ⅰ」等）との連続性と、別の実技系科目への応用性に視点を置き、学ぶべき要素の定着と発展に結び付く楽曲をチョイスする。
- 実技を伴う一斉授業では、全員に目や耳が行き届かなくなりがちだが、できる限り机間（鍵盤楽器間）巡視を行い、場合によっては個人的なワンポイント指導も行う。
- 隣に座る学生同士で“弾きあい・聴きあい・指導しあい”を行うことにより、主体的・協働的学び《アクティブ・ラーニング》の姿勢も大切にしていく。
- 教員自身の演奏活動における経験のなかで学び得たことや失敗談などを紹介し、伴奏という分野やその表現法に興味を持ってもらうような話題を提供する。

以上のような方法で、学生の反応を見ながら試行錯誤を繰り返しています。この授業で学ぶプロセスを通じて、課題解決力や傾聴力、コミュニケーション力といった《ジェネリックスキル》の獲得へと繋げていける学生が一人でもいてくれたら・・・、と願っています。

**平成27年度後期 京都女子大学『学生アンケートによる優秀授業賞』  
「授業紹介シート」**

受賞対象授業名	英語で読む京都
曜日・講時	火曜日 5 講時開講
講義コード	2712
授業区分	授業区分②：受講者数が 50 名以上～99 名以下の開講授業
担当者名	甲斐 雅之
所属学部・学科	文学部英文学科

**今回受賞対象となられた授業について、その取り組みや工夫などについて、ご紹介ください。**

京都についてあまり知らない学生が多いので、英語だけでなく京都について知ることに重点を置いて、量よりも質を優先させました。授業スタイルとしては一方的に英文を読んで説明するのではなく、できるだけ机間に入り学生に語りかけながら進めていきました。説明の言葉は理解しやすいよう身近で易しい語彙を使うよう心がけました。日本的事象の説明用として使われている英語の用語（建築用語、食品、宗教関連用語）については、画像を使って原義を理解させることで定着を図る努力を行いました。（例えば、「こしあん」と puree や paste のイメージ、「東屋」とその訳語に使われる arbor のイメージの異同について等）

教材は、英米人が書いた英語による京都の紀行文やガイドブックの抜粋を利用していました。ただし、単に文献を読むだけでなく、関連する事象については自分で現地に赴き撮影をした写真やグーグル地図も使用し、具体的で理解しやすくなるよう工夫しました。教材の提示には iPhone を利用し、合わせてインターネットでの英語情報の収集の仕方にも触れました。また、京都はサスペンスドラマの舞台としてもよく登場するうえにコンパクトな観光案内にもなっているので、サスペンスドラマの冒頭 20 分ほど（事件が起きるまで）も教材として利用しました。他にも日本を扱ったバラエティ番組、BBC 等の海外メディアの取扱もまめにチェックし、適宜授業で利用しました。和菓子を扱った回では、英文に出てくる和菓子屋に取材に行き、受講生の人数分のお菓子（饅頭）を購入し、実物を見て味わってもらえるよう配布しました。

平成27年度後期 京都女子大学『学生アンケートによる優秀授業賞』  
「授業紹介シート」

受賞対象授業名	社会科教育内容論
曜日・講時	火曜日 1 講時開講
講義コード	3187
授業区分	授業区分②：受講者数が 50 名以上～99 名以下の開講授業
担当者名	松岡 靖
所属学部・学科	発達教育学部教育学科

今回受賞対象となられた授業について、その取り組みや工夫などについて、ご紹介ください。

本講義の取り組みの特徴は次の二点である。

第一は、社会科教育学における基礎的理論を「習得」させる場面と理論を「活用」し、社会科授業を改善する場면을明確化し、講義構成上に位置づけていることである。

第二は、教科書に基づく具体的授業を取り上げ、教材構成の視点から具体的な授業改善の方法を学生自身が思考できるようにしていることである。

前者に関して言えば、今日、アクティブラーニング全盛であるが、アクティブラーニング自体が目的化され、活動的であれば良しとされる風潮があるのではないだろうか。本講義では、「習得型アクティブラーニング」と「活用型アクティブラーニング」の講義形態を意識し、基礎的理論を講義形式で確実に「習得」させる場面とそのような理論を「活用」し授業改善を果たす場면을明確に位置づけることで、理論と実践が結合した講義になるよう心がけている。

また、後者に関して言えば、実際の社会科授業ビデオを視聴させ、学生の社会科授業に対する問題意識を高めた上で、教科書批判の視点から教材構成の在り方について検討させ、学生自身が考えた授業改善策をワークシートに記述し、毎回提出させるようにしている。これらの提出物を毎時間評価し、翌週、学生に返却することで、指導と評価が一体化した講義となるよう心がけている。

最後に、昨年度の本講義に関して振り返れば、1 講時目といったこともあり、当初、集中できない学生も見られたが、講義を重ねるにつれて学生の集中度が高まり、社会科授業改善に熱心に取り組もうとする学生が多く見られた講義であった。

平成27年度後期 京都女子大学『学生アンケートによる優秀授業賞』  
「授業紹介シート」

受賞対象授業名	スポーツ栄養学
曜日・講時	火曜日 3 講時開講
講義コード	3983
授業区分	授業区分②：受講者数が 50 名以上～99 名以下の開講授業
担当者名	寄本 明
所属学部・学科	家政学部食物栄養学科

今回受賞対象となられた授業について、その取り組みや工夫などについて、ご紹介ください。

この授業において心がけているポイントは次の三つです。

1. 受講生の多くはこの教科に関心を持っていますが、あまり馴染みのない教科です。そこで、毎時間重要ポイントを授業の初めに発表しています。終了時には理解度をチェックするため、A5 版用紙に簡潔にまとめ、提出してもらっています。このまとめは試験の問題ともリンクしています。
2. 1 回の講義で教科書 1 章(1 テーマ)を完結しています。さらに、先のまとめの用紙に授業に関する質問や意見を記入し、レスポンスペーパーとしても活用しています。その内容は、次回の授業に反映出来るよう心がけています。
3. テキストや資料を用いた講義だけではなく、理解を深めるため毎時間のテーマに応じた適切な DVD の映像教材を数分(5 分程度)に編集し、活用しています。また、テーマによっては実態や実践例を示し、出来るだけ具体的に紹介しています。

特筆すべきことではありませんが、授業の初回にはシラバスの内容を確認しています。特に、成績評価については明確にその基準を示し、相互理解のもと授業をスタートさせています。

以上がこの授業の取り組み報告です。

平成27年度後期 京都女子大学『学生アンケートによる優秀授業賞』  
「授業紹介シート」

受賞対象授業名	英語圏研究 3
曜日・講時	月曜日 2 講時開講
講義コード	2701
授業区分	授業区分③：受講者数が 100 名以上の開講授業
担当者名	廣田 園子
所属学部・学科	文学部英文学科

今回受賞対象となられた授業について、その取り組みや工夫などについて、ご紹介ください。

当該授業で取り上げたテキストはカナダ文学の名作『赤毛のアン』であるが、書名になじみはあるもののストーリーは把握していない学生が大半であり、また一見単純な少女小説を如何に「研究」するのか、という疑問を抱いていた者も多かった。そこで最初にストーリーを概観した後、毎回の授業では「孤児」「赤毛」「翻訳」「教育」「伝記的アプローチ」等のテーマに沿って、関連する場面を原作及び映画によって紹介し、他作品との比較や歴史的・文化的背景などをプリント資料及びパワーポイントによって提示した。

100名を超える講義形式の授業であったが対象が他学部生も含む3回生ということで、できる限り受け身の姿勢に留まらない批評的思考を養うべく、各回の授業ではテーマに関連した『赤毛のアン』はフェミニズム小説だろうか?」等の問題提起を行い、全ての学生に出席票の裏に自らの意見を記入させた。そして次回授業で優れた回答のいくつかを紹介する形を取ったが、他学生の思いがけない視点を知ることが大きな刺激になったようで、この部分の反応は特に活発であったように思われる。

毎回非常に詳細なコメントを残してくれる学生も多数存在したので、今後は希望する学生に短時間でも発表の機会を与えるなど、学生がアクティブに参加できる講義の形を更に検討することで、受講生にやりがいを感じてもらえるよう、一層努力していきたい。

平成27年度後期 京都女子大学『学生アンケートによる優秀授業賞』  
「授業紹介シート」

受賞対象授業名	民法Ⅰ（総則）
曜日・講時	火曜日 3 講時開講
講義コード	4926
授業区分	授業区分③：受講者数が100名以上の開講授業
担当者名	岡田 愛
所属学部・学科	法学部法学科

今回受賞対象となられた授業について、その取り組みや工夫などについて、ご紹介ください。

本講義は、1回生後期の必修科目であるため、以下の3点を意識的に行っている。

① 抽象的な条文から具体的な例を示し、再度条文へ戻る、という手順を踏む。

たとえば、民法1条3項「権利の濫用はこれを許さない」という条文について、まず趣旨や背景を説明した後、この条文を使って解決した事案（判例）を説明し、再度条文を説明する。この手順をふめば、2回説明を聞くことになるので、多少難易度が高くても理解できる。さらに、具体例を通じてその制度が自分の生活と関わっていることに気付き、興味を持って聞いてもらうことができる。

② テキストに沿ったレジュメを作成して説明する。

テキストの内容と私見が異なる場合でも、基本的にテキストに沿って資料を作成、説明して、学生に自主学習を促している。一方、学問的興味を持ってもらうために、時にテキストとは異なる見解を示したり、現実の問題点を指摘したりして、テキストの見解が完全でないことを示し、さらに学ぶ大切さを感じてもらおうように心がけている。

③ 課題の添削と解説

論述式的答案を書くことができるように、また法的思考力を高めるために、課題を出し、それを全て添削、返却し解説している。添削作業がかなり大変であるが、確実に力を伸ばすので、頑張っている。

今後の課題は、学習意欲の低い学生に対する対応とレベルの維持である。必修なので全学生が履修するが、学生の成績が二極化しつつある。上位層も増える一方で合格レベルに達しない学生数も増加傾向にあるため、意欲の低い学生の底上げを図っているが、十分対応できていないと感じている。また、講義のレベル設定が年々難しくなっており、これらの課題を検討中である。

平成27年度後期 京都女子大学『学生アンケートによる優秀授業賞』  
「授業紹介シート」

受賞対象授業名	教育課程論
曜日・講時	金曜日 2 講時開講
講義コード	3670
授業区分	授業区分③：受講者数が 100 名以上の開講授業
担当者名	上月 智晴
所属学部・学科	発達教育学部児童学科

今回受賞対象となられた授業について、その取り組みや工夫などについて、ご紹介ください。

本科目は、児童学科 2 回生後期に開講されている幼稚園教諭免許・保育士資格必修科目です。幼稚園・保育園における教育課程・保育課程の編成の意義や、指導計画作成の実際を学びます。

学生ができるだけ興味・関心を持って学習に取り組めるように、授業では、まず学生が 2 回生夏休みの保育実習で経験した「日案」レベルの指導計画の振り返りから始めています。学生は初めての現場実習を終えたところで、特に「日案」の書き方について、いろいろな反省や疑問を持って帰ってきたところで、まずはその課題に応えることから授業をスタートします。

その後、教育課程・保育課程の意義・必要性、年齢に応じたカリキュラム、行事計画、子ども理解に基づいた指導計画の作成、長期的計画と短期的計画の関係、計画・実践・評価のサイクルなど、多様な保育実践例をもとに考察していきます。

受講生は、100 名を超える多人数ではありますが、ディベート、グループディスカッションをできるだけ取り入れながら、教員・学生の双方向型の授業、学生同士が協同的に学び合う授業を目指しています。また、一度の実習経験しかなく、保育現場・保育実践・乳幼児のイメージをまだ豊かに描くことに難しさのある学生が、できるだけリアリティーのある教育課程・保育課程の編成、指導計画の立案力を身につけていけるように、さまざまな保育実践記録・視聴覚教材を取り入れるなどの工夫をしています。